

【1. 2022年度予算案の概要】（詳細は別紙の表を参照）

○経常収入：1531万：前年度予算+335万円

前年より増額。秋季大会のハイブリッド開催（現地+オンライン）対応。
秋季大会参加費値上げ(+143万)、現地討論会・交流会参加費増額(+160万)。
一方、例年70~120万円得ていた科研費(公開講座講演会用)は不採択だった。

○経常支出：2263万：前年度予算+21万円

秋季大会はハイブリッド開催とし、オンラインは今期も業者委託予定（160万）。
今期も秋季大会の現地討論会・交流会費用（228万）を学会予算に組み込み。
ACVは支出なし。会誌は紙代印刷費値上がり（+26万）。それ以外はほぼ例年並み。

○収支差額：計算上は732万円赤字

実際は、余裕をある程度取っているほか（ただし前年度より圧縮）、節約等のためここまでの赤字にはならない想定。ただし今年度は200万円程度赤字の恐れ（後述）。

→ 例年以上に節約へのご協力をお願いしたい。

【2021年度予算の例】：計算上は1046万赤字 → 実際の赤字46万

【2020年度予算の例】：計算上は894万赤字 → 実際は黒字33万（ただしコロナ影響大）

【2. 新型コロナウイルスの影響、科研費不採択の影響】

- ・新型コロナウイルスの影響は今期も残り、様々な事業が予定通り行えない可能性。
ただし予算積算は、基本的に予定通りの実施を想定。
- ・秋季大会は、学術講演会のハイブリッド開催を想定して準備中。現地開催とオンライン開催の両方の経費が発生するため、例年より大会開催費が増大。→ 参加費値上げで大半をカバー見込み
- ・現地討論会・交流会会計は2020年から学会予算に組み込んでいる。中止の場合にキャンセル料を学会予算から支出可能とするため。
- ・科研費不採択の結果、公開講座講演会費用（145万円）が丸ごと赤字になる見込み。

→ 例年のつもりで予算を使っていくと、ハイブリッド開催で生じうる赤字（想定では18万円）や公開講座講演会で発生する赤字（積算145万円）の影響により、例年の赤字（数十万円）を大きく上回る200万円程度の赤字が発生する恐れ。

以上